

米沢市教育委員会 会議録

令和4年11月29日(火)

開会 午前 9時00分

閉会 午前10時12分

1 出席委員

教育長 土屋 宏 委員 神尾 正俊 委員 我妻 仁
委員 渡邊 美智子

2 出席職員

教育管理部長	森谷 幸彦	教育指導部長	山口 玲子
教育総務課長	高橋 利明	社会教育文化課長	小田 浩昭
スポーツ課長	佐藤 恵一	学校教育課長	植木 修
適正規模・適正配置推進主幹	森谷 純	教育総務課長補佐	米原 裕美
教育総務課総務主査	佐藤 真英	教育総務課主査	伊藤 和香子

3 傍聴人の有無 無

4 会議録の承認

令和4年11月14日開催分

5 議事

議第33号 令和5年度米沢市小・中学校教育課程基準について

6 報告事項

- (1) 米沢市営八幡原体育館等の指定管理者の指定について
- (2) 令和4年度全国学力・学習状況調査の実績結果について
- (3) 新しい中学校制服のあり方について
- (4) その他

7 その他

教育長 教育委員会を開催する。初めに会議については、地方教育行政の組織及び運営

に関する法律の規定により原則公開となっている。本日の会議の案件については、非公開にすべきものはないものと考えられるので公開としたいと思う。この件について、ご異議ないか。

———異議なし———

教育長 異議なしと認め、公開とする。

———会議録の承認———

教育長 議事に入る。議第33号令和5年度米沢市小・中学校教育課程基準について説明をお願いする。

学校教育課長 ———資料により説明———

教育長 ご質問等いかがか。

神尾委員 小中学校共に（４）の信頼される学校づくりの推進のところに、小中一貫教育をめざした取組の重視と記載されている。小中連携についてお聞きしたい。これまで小中連携の日を設け、小中学校の教員がお互いに授業を参観し合ったり、子ども達について話し合いをする等の取組が中学校区ごとに行われてきたが、その取組については令和5年度も継続されるのかどうか。また、小中連携の日の効果についてお伺いしたい。（３）の特別支援教育については、コーディネーター研修会が有意義に行なわれているが、学校に戻ってからの伝達講習や各学校内での研修の広がりがなかなか難しい状況にある。ぜひ、コーディネーター研修会についても各学校で伝達講習を積極的に行っていただくような呼びかけをお願いしたい。

学校教育課長 令和5年度についても小中連携の日は設定していきたいと考えている。学区の小中学校が一同に会して授業参観やテーマ別に議論を重ねることができる機会となっている。特に小学校の先生にとっては、卒業した子ども達が中学校で活躍する姿を見ることができたり、中学校の先生にとっては、小学校でどのような指導を行ってきたのか学ぶ機会にもなり、小学校、中学校お互いにとって中身の濃い充実した研修になっていると聞いている。小中連携の日以外にもお互いの授業研究会を見学するという事も進んでいる。特別支援教育コーディネーター研修については、以前はコーディネーターの先生に参加いただいていたが、近年は一般の先生方にも広く参加していただいている。先生方にとってもニーズの高い研修会になっていると考えているので、学校に戻ってからの伝達講習についても呼びかけている。さらにたくさんの先生方に参加していただける体制づくりも引き続き進めていきたいと考えている。

教育長 他にご質問等いかがか。なければ議第33号令和5年度米沢市小・中学校教育課程基準についてご承認いただいでよろしいか。

———異議なし———

教育長 ご承認いただいた。次に報告事項に入る。（１）米沢市営八幡原体育館等の指

定管理者の指定について説明をお願いします。

教育管理部長 米沢市営八幡原体育館等の指定管理者の指定について説明をさせていただく。当案件については、令和4年11月14日に開催された教育委員会において議第29号議案として提出させていただき、同日議決された案件であるが、その後、市議会12月定例会提出予定議案として議会に説明させていただいた。令和4年11月18日の市議会総務文教常任委員会協議会において、指定管理候補者から提出された当該業務の事業計画書等の審査及び基本協定の仮契約が成されていないことが判明した。当然にして指定管理者の指定に関する議案については、事業計画書等の審査及び基本協定の仮契約が完了した上で提出を行い、内容が確定した状態で審査していただくべきものであり、この度の議案の取扱いは不適切なものであったことから、教育委員会事務局内はもちろん、本市関係各部、課とも協議した結果、米沢市営八幡原体育館等の指定管理者の指定についての議案は市議会12月定例会へは提出せず、取り下げさせていただくこととした。市議会の議決を経るべき事案として市長に申し出るため、教育委員会において議決をいただいていたにもかかわらず、その後に判明した私どもの事務処理の不手際により、このような事態に至り市議会の混乱を招き、教育委員の皆様にも多大なるご迷惑をおかけしてしまったこと、そして何より日ごろから八幡原体育館をご利用いただいている市民の皆様や関係者の皆様にご心配をおかけしてしまったことについて心からお詫び申し上げる。誠に申し訳ない。今後はこのような不適切な議案の提出がないよう関係法令及び事務マニュアル等に基づき適切な事務処理を行うよう徹底していくので、どうぞご理解を賜るようお願いします。

教育長 ご質問等いかがか。

我妻委員 所定の手続きの一部に瑕疵があったということだが、実施計画書の審査なり基本協定の仮契約を準備していくのか、今後の見通しはどのような形になるのかお聞きしたい。

スポーツ課長 指定管理については当面行わず、直営で運営していく準備を進めている。市が管理運営する上で、直接行わなくてはいけない業務として使用許可関連等がある。今までは施設の管理運営のほとんどをお願いする指定管理となっているので、それを部分的に委託していく部分委託を含めて直営での管理運営の準備を行っているところである。

教育長 他にご質問等いかがか。なければ(2)令和4年度全国学力・学習状況調査の実績結果について説明をお願いします。

学校教育課長 ——資料により説明——

教育長 ご質問等いかがか。

我妻委員 資料1の4学習状況との関連の(1)小学校の児童質問紙よりの課題のところ

で算数の学習が苦手という意識があるということだが、全国及び県の平均点と同等か下回っているところにも原因があるのではないかと思うが、その下に国語の学習が苦手という意識がないとある。表現としてこれで良いのか。苦手という意識がないということは大丈夫であるということか。

学校教育課長 算数については児童質問紙の中で算数が好きか、算数の授業が分かるという項目があり、全国平均と比べて好きという割合や授業が分かるという割合が低く、子どもの意識と合うように点数もなかなか取れていない状況にある。国語については国語が好きである、授業が分かるという意識はあるのだが、実際に点数が取れているかというとなかなか取れていないことから、国語が分かっているということが分かっている状況にあるということで、このような表現になっているものである。

我妻委員 苦手だ、嫌いという意識は持っていないのだが、結果が出ていないということか。

学校教育課長 はい。

我妻委員 小学校の国語、算数で記述式の解答の正答率が低いかつ無回答が多いということだが、記述式が書けない或いは弱いという原因は問題の数をこなしていないからではないか。

学校教育課長 数をこなしていないということも大きな原因だと思っている。子ども達は協働的な学習を授業の中で取り入れており、例えば友達と話しながら答えを探っていくという手法については定着しているが、1時間の中で学んだことを最後にまとめようとした時に、どれだけ自分の言葉で表現できるかという学習がまだまだ小学校では弱いのではないかと考えている。授業の最初に課題と向き合った時に自分の考えを持った上で、友達と交流して新たな情報を得ることによって考えを深めて、最後に自分の思ったことを言葉でまとめたり、友達に発表する等、一人ひとりが自分の考えを表に出すことを日常的にしていかなないと記述するようになった時にできないのではないかと考えている。授業の最後のまとめを教員がするのではなく、子ども達一人ひとりにさせる工夫が必要だと感じている。

我妻委員 グループが集まって課題に対して話し合いながらまとめていくやり方は、ある部分良いと思うのだが、授業を参観させていただいた限りではグループにもよるが、リーダー的な子どもの考えが中心になってまとめられ、その他の子ども達はただ単にその意見を書いているだけで1時間が終わってしまう。それを考え方として書いていくことも大事だと思うが、グループ学習をした他に似たようなテーマを複数出していただき、それを家庭に持ち帰り一人で純粋に考えて書いてみる、それを学校へ持って来て評価をしてもらうという循環ができていくと良いと思う。地道だが繰り返し、数をこなしていくことで記述式の力が伸

びてくると思う。よろしく願います。

教育指導部長 繰り返して慣れていくことは、小学生にとって本当に大切なことだと思う。

苦手でも繰り返しているうちに自然と自分が書けるようになってきたことを実感できる場面が必ずある。授業の組立の中で個の考えを持って、集団で関わって、さらに最後は個に戻す。自分の学びを実感させたり、自分の言葉でまとめたり、みんなと話した中で分かったつもりになっているところが確実な力となってそれぞれの個に定着させるという流れについては、学校訪問の際にも指導しているところであるが、1時間の中ではどうしても時間配分が難しいため、個に戻すところが家庭学習とつながればより良いと感じている。併せて国語の力が算数や他の教科にも大きく影響すると思っている。読み取ること、自分の言葉で表現するといったこと全ては国語がベースになっている。国語が苦手という意識はないが、力としては十分とは言えないという状況から、国語の力をしっかり付けていくことは、その先の学びを定着させる上でも大事なことだとこの分析を通して改めて感じているところである。

渡邊委員 資料1の4学習状況との関連で小学校も中学校も学校での学習が家庭での学習に結びついていないとあるが、これはどのようなところを指しているのか教えていただきたい。

学校教育課長 児童生徒共に家庭学習時間が全国平均と比べて非常に低い値となっている。

学校では一所懸命に学習するのだが、帰宅後はテレビを見たり、ゲームをする時間が全国平均と比べて高い状況である。学校で学んだことを活かして、家でももう少しやってみたいと思うことや、家でやってきたことを基に授業を組み立てるといった反転学習のような、家でやってきたからこそ授業が成り立つという仕掛けをつくって家庭と学校での学習に良いサイクルが生まれるように、学校とも話題にしながら取り組もうとしているところである。子ども達の意識付けとしてご家庭にも協力をいただきながら、学校と家庭が上手く連動するような取組をさらに進めていかなければいけないと考えている。

教育長 他にご質問等いかがか。なければ(3)新しい中学校制服のあり方について説明をお願いします。

適正規模・適正配置推進主幹 ——資料により説明——

教育長 ご質問等いかがか。

我妻委員 統一制服を採用することとした理由の2つ目に、アイテム等の仕様の工夫次第で学校ごとの特徴を出すことが可能とある。統一制服にするものの、アイテムによりどの学校の生徒か確認したいということだと思う。女子の場合はリボン等で区別できるのではないかと思うが、男子生徒はどういうアイテムで区別するのか教えていただきたい。

適正規模・適正配置推進主幹 イメージとしてだが、ブレザーを羽織ることになった場合は、学校ごと

に違うデザインのワッペンを付け、色もスクールカラーを決めて、その色の生地にして区別する。併せて襟章にスクールカラーをワンポイントで入れることもできる。全体は共通だが、アイテムを付けることによって学校の区別をするということもあると思う。襟にラインやステッチを入れ、その色を変えるということもできる。制服の単価が上がらない、保護者の方の負担が少ないということが命題になっているので、できるだけ共通の仕様にしてワンポイント等で学校の違いを目立たせるというのが良い形ではないかというのが（２）の理由である。また、先程申し上げたワンポイントの他に、ジャケットは共通でストラックスの柄を変えるという方法を取ることもできると聞いている。様々ある中から最も価格が上がらず、できるだけ学校の区別ができるものを選択していくことになると思っている。

我妻委員 感想として、今までの経験から申し上げますと、公募型プロポーザルで制服のデザインや価格を含めて業者を決定するとなると、制服の仕様はそう変わらないのでボリュームのある業務を受注できるということから、価格をかなり下げてくる業者も中には出てくると思う。デザインも大切、価格も大切という総合評価プロポーザルになると思うが、いずれにしても業者が決まり、ある程度の年数を特定業者と継続契約をしていくことになるので、最初は安かったが、いつの間にか物価上昇等によって割高になるということがあり得るので、業者が決めたデザインを採用するにしても、デザインの著作権は市が持ち、例えば発注業者を変えられるというような工夫を今後検討していただきたいと思う。

適正規模・適正配置推進主幹 今まで制服は学校ごとにリニューアルし、デザインもそれぞれの学校で業者と話し合い作成してきたということがある。これは負担が結構あったということもお聞きしている。統合に当たり統一でリニューアルさせていただいて一定程度のサイクルでリニューアルするのか、デザインを変えるのか、それともデザインは共通のままにするのか、これからも生地等の高騰も出てくると思うので予定価格を設定しながら再度業者の方々に参加していただいて製造業者を決めていくという手法も検討していく必要があると思う。子ども達が動きやすい納得のいく制服であり、保護者の皆様があまり負担に感じないような価格帯で提供できるような形を検討していきたいと考えている。

我妻委員 よろしくお願ひする。

神尾委員 運動着やうち履きについては、それぞれの統合準備委員会で検討、決定していくという理解で良いのか、教えていただきたい。

適正規模・適正配置推進主幹 制服と同じようなタイミングで運動着も考えていかないと、令和８年度に統合中学校が開校した時にばらばらな運動着でスタートすることになってしまうので、検討委員会方式ではないが統合準備委員会が立ち上がるよりも早い時期に統合中学校ごとに運動着、ズック、通学カバン等について検討を

開始したいと思う。

渡邊委員 今後のスケジュールの中で第五中学校はどうなっているかお聞きしたい。

適正規模・適正配置推進主幹 第五中学校については、令和7年度に第一中学校と統合する予定である。来年4月に第五中学校に入学する子ども達から新たな制服になるため第一中学校仕様の制服を購入して着用いただく予定である。先日開催した来年度に向けた保護者の皆様への説明会の折にも、第一中学校の制服、運動着等の購入について説明させていただいたところである。第一中学校は令和11年度に第七中学校と統合するため、それに向けて令和9年度から統一の制服を着用する予定である。

我妻委員 学校名を決定するプロセスはどのようにお考えか、お聞かせいただきたい。

適正規模・適正配置推進主幹 現在、準備をしているところだが、公募を実施したいと考えている。今までの例では第七中学校の校名を公募している。統合中学校については、3校共公募させていただき、審査会の中で最終候補を決め、教育委員会でお諮りして最終的に校名を決定したいという予定である。

教育長 他にご質問等いかがか。なければ報告事項の(4)その他に移る。その他についていかがか。なければ報告事項を終了し、5のその他について、委員の皆様からいかがか。なければ、以上を持って本日の教育委員会を終了する。